

福島大学資料研究所活動報告書

所長 黒沢 高秀

○研究目的

福島大学で所蔵している研究資料や郷土資料の適正保管や活用を図るとともに、図書資料や各種情報と結びつけ、教育・研究・地域との連携を推進する。

○研究メンバー

＜研究代表者（研究所長）＞

黒沢高秀（共生システム理工学類・教授）

＜研究分担者（プロジェクト研究員）＞

菊地芳朗（行政政策学類・教授）

阿部浩一（行政政策学類・教授）

塘 忠頭（共生システム理工学類・教授）

徳竹 剛（行政政策学類・准教授）

＜連携研究者（プロジェクト客員研究員）＞

澁澤 尚（人間発達文化学類・教授）

小松賢司（人間発達文化学類・准教授，2015年5月12日より）

笠井博則（共生システム理工学類・准教授）

難波謙二（共生システム理工学類・教授）

鍵和田賢（人間発達文化学類・准教授）



図1 福島大学貴重資料研究所HP



図2 震災遺産とふくしまの記憶のチラシ

○研究活動内容

HP の作成と公開開始

福島大学資料研究所は 2015 年 2 月 23 日に発足し、活動を始めた。5 月 19 日に福島大学資料研究所 HP を公開し、研究所の活動を紹介するとともに、県内の貴重資料に関するニュースを「お知らせ」欄に掲載を開始した。

また、標本データベースのデータの照会が研究者から 9 件、国（環境省）から委託を受けたコンサルタント会社から 4 件あり、対応した。国内の博物館からの標本の貸し出し依頼 1 件（1 点）に対応した。国内の植物園に標本の寄贈を 1 件（2 点）行い、国内の博物館 1 館に交換標本 91 点を送付した。

『福島大学貴重資料集』の発行

『福島大学貴重資料集』第 4 号を 8 月 31 日に発行した（表紙の画像と内容は『福島大学研究年報』第 11 号を参照）。現在、福島大学学術機関リポジトリで公開中である。

共催事業・後援事業

2015 年 9 月 26 日～10 月 6 日に福島大学で開催された、震災遺産とふくしまの記憶（主催 ふくしま震災遺産保全プロジェクト・福島大学）を共催した。様々な形で各地に残り、また遺されてきた東日本大震災を物語る資料を、うつくしまふくしま未来支援センターで展示すると共に、9 月 26 日には「ふくしまの震災関連資料の保全と活用」と題した記念シンポジウムを共通講義棟で開催した。

また、2015 年 8 月 27 日に行われた水草研究会第 37 回全国集会標本室見学会を後援した。この標本室見学会では、全国の学外の大学や研究機関等の研究者 6 名が福島大学共生システム理工学類生物標本室 FKSE の見学や標本調査を行った。

大学貴重資料の整理・活用

福島大学避難所資料の整理を行い、展示に向けての準備も進めた。

福島高等商業学校資料に資料番号を付け分類するなどの整理を行うための準備を行った。

FKSE では 2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日の間に、先の標本室見学会参加者も含めてのべ 57 名の学外の研究者の訪問利用があった。